

魚沼市自然環境保全事業

平成 25 年

度魚沼市自然環境保全調査報告書

－自然を活かしたまちづくりのための市民参加型調査－

監修：石沢 進／倉重祐二／富永 弘

発行：魚沼市



## はじめに

魚沼市は、尾瀬ヶ原や、平ヶ岳、浅草岳、守門岳、荒沢岳、越後三山など海拔1500mを超える山々があり、そこから流れ出す河川によって極めて複雑な自然環境が広がっている。植物については、各山岳についての断片的な記録や、中には詳細な報告書が出版されているところもある。しかしながら、人の生活圏とその周辺部の、いわゆる里山の植物の調査は十分行われていない。動物についてもほぼ同じような状況と見られる。

このような中で、魚沼市では2010年度から里山の動植物の調査を進めてきている。里山は人の生活圏にあるため、人の行為が生物の生きる環境に大きく影響を与えている。人の営みによって、古来から見られた生物が消滅することも多い。一方で、人為的な作用が生き物の生存を可能にしている場合もある。ある時点において魚沼市内に生息する動植物を知り、その変化を明らかにすることは、人と他の生物との良好な関係を保つための必須の条件である。

太古から、人々は自然の恵みによって生活してきたが、生物の多様性に富んだ地域ほど、より多くの恩恵を受けてきた。生物多様性に富んだ地域での生活は、理想郷と言っても過言ではない。恵まれた自然環境の中で暮らしていると、ともすれば自然の恩恵を忘れがちになる。身の回りの動植物や自然の現状を把握することは、将来に備える大切な手段としての一面も持っている。そのような意味でも、魚沼市の自然環境の実態を明らかにしておくことは重要である。

ある地域に生息する生物の現状を、手っ取り早く明らかにすることは難しい。特に魚沼市は、面積が広くて多くの山体や河川があり、地形も複雑である。短期間に全貌を把握することはできない。と言って、手をこまねいては、大切な自然環境の喪失を招きかねない。限られた地域について少しずつであっても、調査を継続することが大切である。その成果の積重ねは、将来活用する基礎資料としての、市の財産目録を整えることとなるであろう。

植物調査は、2011年度に旧各町村で調査地を選んで手がけ、2012、2013年度に追加調査を行った。調査は、いずれも市民参加で行われた。引続き、調査精度の向上を目指した活動が必要である。また、旧各町村一か所だけの調査から魚沼市全体のまとめを行っても、それぞれの地域の特色は明らかにはならない。たとえば、新潟県の絶滅危惧種とされている植物は667種であるが、魚沼市の3か年の調査では、45種ほどが発見されたに過ぎない。魚沼市全体からみれば極めて少ない結果である。範囲を広げて調査を継続することにより、多くの種類が明らかになるであろう。

2012年度より昆虫類の調査を開始したが、植物分野とは比較にならないほど種数が多いことや、天候により見られる場所が変わるなど調査の難点もあり、全容の解明には長い期

間が必要であろう。

また、2012年度から鳥類の調査も行っている。鳥類については、魚沼市の調査だけでなく、柳瀬昭彦氏とそのグループが長年にわたる調査結果をまとめているので、魚沼市のほぼ全容が把握されているとみられる。植物をはじめ他の生物についても、鳥類で進めてきたような調査を行うことにより、全容の解明に近づける努力が必要である。

2014年3月

魚沼市自然環境保全調査委員会 委員長  
元新潟大学教授 石沢 進



# 目次

口絵	1
1. 調査概要	5
2. 植物相調査	9
口絵	11
1) 調査目的・背景	15
2) 調査地域の位置	15
3) 調査方法	16
4) 調査結果	17
5) 2013年度植物調査の評価と今後の展望（富永 弘、石沢 進）	19
6) 植物分布図	27
7) 参考文献	30
植物目録	31
3. 鳥類調査	69
口絵	71
1) 調査目的・背景	73
2) 調査地域の位置	73
3) 調査方法	74
4) 調査結果	75
5) 2013年度鳥類調査の評価と今後の展望（桑原和寿、柳瀬昭彦）	76
6) 参考文献	80
鳥類目録	81
4. 昆虫調査	83
口絵	85
1) 調査目的・背景	89
2) 調査地域の位置	89
3) 調査方法	90
4) 調査結果	91
5) 2013年度昆虫調査の評価と今後の展望（横山正樹）	92
6) 参考文献	98
昆虫目録	99
おわりに（倉重祐二）	103



## 植物調査地

### 鳥屋ヶ峰



古峯神社



孫太郎池

### 根小屋遊歩道



周辺の状況



調査のようす

### 栃原峠



峠道



県道周辺の状況



## 松川林道



松川林道



調査のようす

## 日付川



調査のようす



日付川

## 板木遊歩道



板木遊歩道



調査のようす



## 昆虫調査地

### 根小屋



公園のトンボ池



根小屋の養鯉池

### 原虫野



原虫野の湿原



原虫野の池

### 中 家



中家の養鯉池

### 長瀬沢



長瀬沢の林道

## 鳥類調査



こまみの湯周辺探鳥会 2013.5



杉ノ入沢探鳥会 2013.5



大倉探鳥会 2013.5



中子沢・三ツ又探鳥会 2013.5



大倉探鳥会 2013.5



魚野川周辺探鳥会 2014.2

# 1. 調査概要

## 1) 調査概要

### (1) 調査の目的

魚沼市では、2011年度から2012年度にかけて、魚沼市総合計画及び魚沼市環境基本計画の中で掲げている基本目標「色とりどりの四季と人が共生するまちづくり」を実現するための施策の一環として、魚沼市自然環境保全調査事業を実施してきている。

今回、2013年度は、2012年度に引き続き、魚沼市の自然環境の特性、中でも、里山を中心とした植物や鳥類、昆虫の生息状況を明らかにすることを目的として調査を実施した。

また、調査の過程で、市民啓発を行うことも目的として実施した。

### (2) 実施方法

2013年度については、2012年度調査と同様に里地里山における植物、鳥類、昆虫の生息状況について調査を行った。調査地は、植物調査は2011年度及び2012年度に調査した箇所の中から6か所を選定して実施した。鳥類調査は5か所、昆虫調査は4か所で実施した（調査箇所は図1-1参照）。

2013年度調査については、特定非営利活動法人野外教育学修センター魚沼伝習館に委託することにより実施した。調査にあたっては、これまでと同様に、意識啓発を図るために、市民から調査ボランティアを募って調査を実施した。また、現地調査や観察会、標本整理等について、魚沼自然大学や小出野鳥の会、魚沼昆虫同好会、社会福祉法人わかあゆ社からも協力を得ながら実施した。調査を実施する際、観察会を兼ねて実施するなど、参加者に対する啓発活動も行った。

調査員及びボランティアの参加者数は延べ212人、調査日数は延べ70日の実施であった。

### (3) 調査結果

2013年度調査では、植物は586種、鳥類は60種、昆虫は78種（トンボ類39種、チョウ類39種）を確認することができた。それぞれの結果の詳細は、分野毎に後述する。



## 2) 魚沼市の概要

魚沼市は、新潟県の南東部にあり、福島県、群馬県と接している。面積は 946.93km<sup>2</sup> で、そのうち 84%が森林である。人工林の割合は約 8%と低く、大部分がミズナラやコナラを中心とした落葉広葉樹林で占められている。

地形は、西を緩やかな魚沼丘陵と東山丘陵、東を急峻な越後山脈に挟まれた盆地を形成し、最低点は標高 74m、最高点は 2,141m と、高低差 2,067m の変化に富んだ地形である。主な河川は魚野川と、その支流である破間川や佐梨川、羽根川などであり、多くの河川によって平地や段丘、扇状地などが形成されている。

本市には北北東－南南西方向に新発田－小出構造線が走っており、これを境に東西で大きく地質が異なっている。

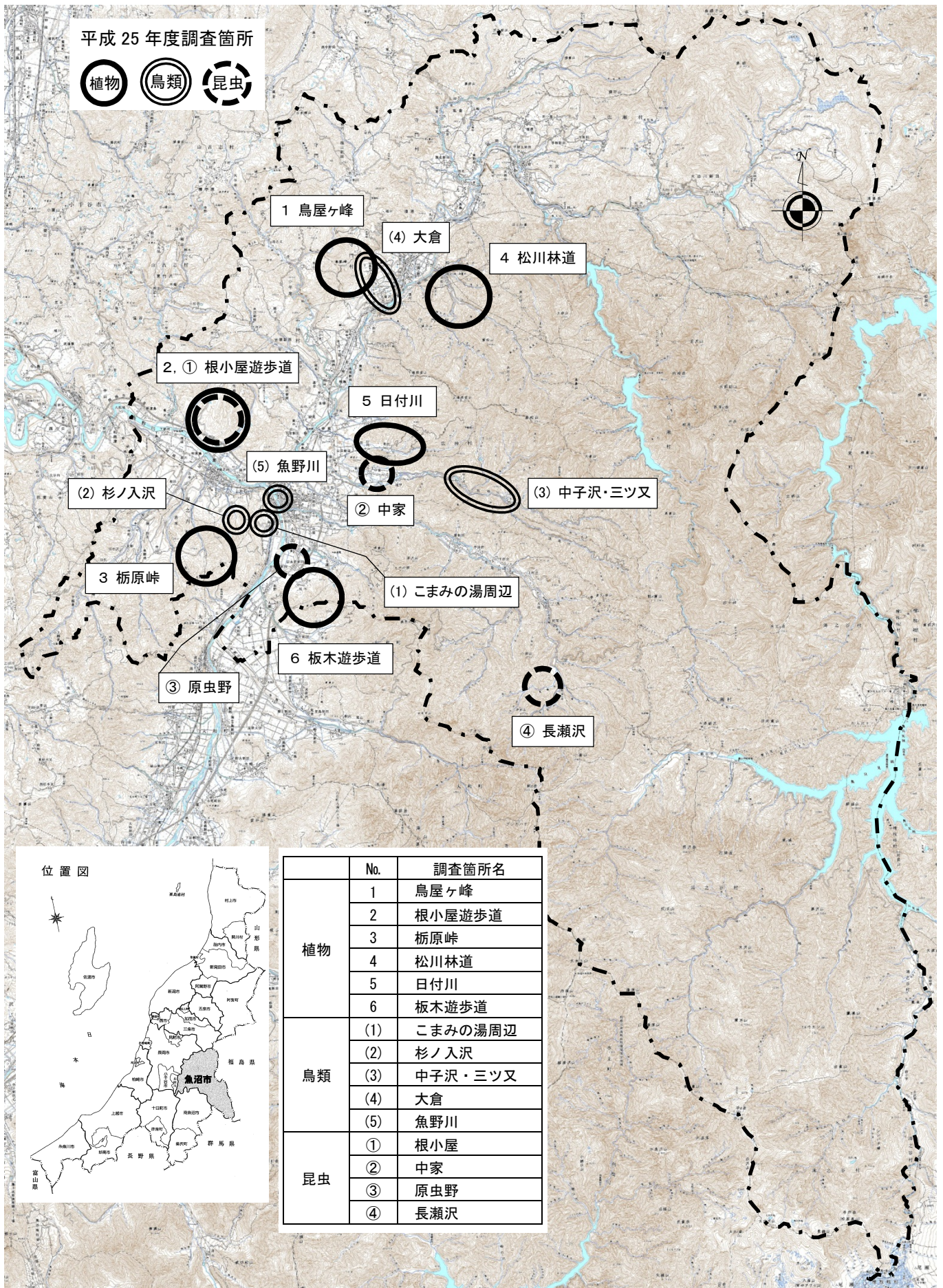
また、本市の気候は典型的な日本海型気候であり、夏は高温多湿で、冬は市街地でも 3m を越える積雪に覆われる豪雪地帯である。気象庁アメダス観測所の平年値は、小出観測所では年平均気温 12.1℃、年間降水量 2,544mm、入広瀬観測所※では、年平均気温 11.1℃、年間降水量 3,050mm となっている（表 1-1）。

表 1-1 魚沼市の気象データ（気象庁アメダス観測所、平年値）

観測所名		1月	8月	年間
小出	平均気温	0.1℃	25.6℃	12.1℃
	降水量	370mm	161mm	2,544mm
入広瀬	平均気温	-0.5℃	24.3℃	11.1℃
	降水量	468mm	192mm	3,050mm

※2013年12月16日まで入広瀬観測所。2013年12月17日から守門観測所に移転。





国土地理院の数値地図 25000 (地図画像)「新潟」、「日光」、「長岡」、「高田」を掲載

図 1-1 魚沼市自然環境保全調査事業 調査箇所図



